

新学習指導要領の改訂のポイントと学習評価 (高等学校 総合的な探究の時間)

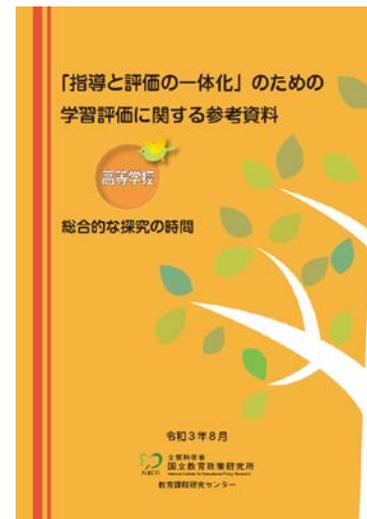
文部科学省

初等中等教育局

教育課程課教科調査官 加藤 智

目次

1. 総合的な探究の時間の新設の趣旨
2. 総合的な探究の時間で育成する資質・能力
3. 学習評価の進め方
4. 評価規準の作成と評価のポイント



1. 総合的な探究の時間の新設の趣旨

総合的な学習の時間は、**学校が地域や学校、児童生徒の実態等に応じて、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習とすることと同時に、探究的な学習や協働的な学習とすることが重要であるとしてきた。特に、探究的な学習を実現するため、「①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現」の探究のプロセスを明示し、学習活動を発展的に繰り返していくことを重視してきた。**

全国学力・学習状況調査の分析等において、総合的な学習の時間で探究のプロセスを意識した学習活動に取り組んでいる児童生徒ほど各教科の正答率が高い傾向にあること、探究的な学習活動に取り組んでいる児童生徒の割合が増えていることなどが明らかになっている。また、総合的な学習の時間の役割はOECD が実施する生徒の学習到達度調査（PISA）における好成績につながったことのみならず、学習の姿勢の改善に大きく貢献するものとしてOECD をはじめ国際的に高く評価されている。

1. 総合的な探究の時間の新設の趣旨

その上で、**課題と更なる期待**として、以下の点が示された。

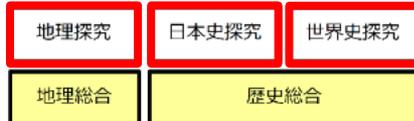
- 総合的な学習の時間を通して**どのような資質・能力を育成するのか**ということや、総合的な学習の時間と**各教科・科目等との関連**を明らかにするということについては学校により差がある。これまで以上に総合的な学習の時間と各教科・科目等の相互の関わりを意識しながら、学校全体で育てたい資質・能力に対応した**カリキュラム・マネジメント**が行われるようにすることが求められている。
- 探究のプロセスの中でも「整理・分析」、「まとめ・表現」に対する取組が十分ではないという課題がある。**探究のプロセスを通じた一人一人の資質・能力の向上**をより一層意識することが求められる。
- 地域の活性化につながるような事例が生まれている一方で、本来の趣旨を実現できていない学校もあり、**小・中学校の取組の成果の上に高等学校にふさわしい実践が十分展開されているとは言えない**状況にある。
- 各学校段階における総合的な学習の時間の実施状況や、義務教育 9 年間の修了時及び高等学校修了時まで育成を目指す資質・能力、高大接続改革の動向等を考慮すると、**高等学校においては、小・中学校における総合的な学習の時間の取組の成果を生かしつつ、より探究的な活動を重視する視点から、位置付けを明確化し直すことが必要**と考えられる。

1. 総合的な探究の時間の新設の趣旨

国語科



地理歴史科



公民科



■ …共通必修

■ …選択必修

※ グレーの枠囲みは既存の科目

数学科



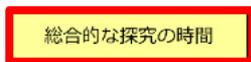
理科



保健体育科



総合的な探究の時間

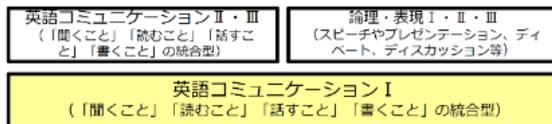


※ 実社会・実生活から自ら見出した課題を探究することを通じて、自分のキャリア形成と関連付けながら、探究する能力を育むという在り方を明確化する。

芸術科



外国語科



※英語力調査の結果やCEFRのレベル、高校生の多様な学習ニーズへの対応なども踏まえ検討。

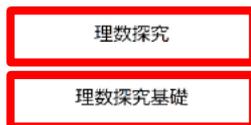
家庭科



情報科



理数科



1. 総合的な探究の時間の新設の趣旨

教科等における探究科目との違い

■ 学習対象が横断的・総合的

学習対象が、実社会や実生活における複雑な文脈の中に存在する

■ 複数の教科・科目等における見方・考え方を総合的・統合的に働かせる

実社会や実生活における複雑な文脈の中に存在する問題を様々な角度から俯瞰して捉える

■ 「最適解」や「納得解」を見出すことを重視

解決の道筋がすぐには明らかにならない課題や、唯一の正解が存在しない課題に取り組む

小中学校の「総合的な学習の時間」との違い

高度化した探究

【整合性】 探究において目的と方法が一貫している

【効果性】 探究において適切に資質・能力を活用している

【鋭角性】 焦点化し深く掘り下げて探究している

【広角性】 幅広い可能性を視野に入れながら探究している

自律的な探究

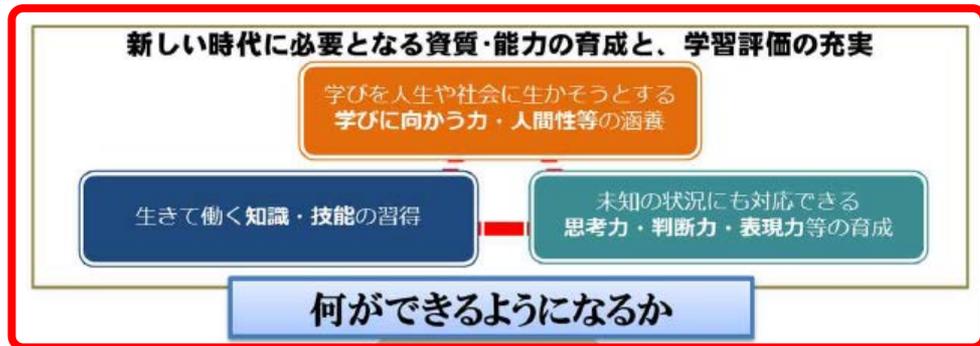
【自己課題】 自分にとって関わりが深い課題になる

【運用】 探究のプロセスを見通しつつ、自分の力で進められる

【社会参画】 得られた知見を生かして社会に参画しようとする

より洗練された
質の高い探究

2. 総合的な探究の時間で育成する資質・能力



何を知っているか
から
知っていることを使って
何ができるようになるか
を重視

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現
各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要な資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の新設など
各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

※高校教育については、些末な事象的知識の暗記が大学入学資格で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成
知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善



2. 総合的な探究の時間で育成する資質・能力

総合的な探究の時間 第1の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できるようにする。
- (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

総合的な探究の時間の特質に応じた学習の在り方を示す部分（柱文）

- ①探究の見方・考え方を働かせる
- ②横断的・総合的な学習を行う
- ③自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していく

育成することを目指す資質・能力を示す部分

- (1)知識及び技能
- (2)思考力，判断力，表現力等
- (3)学びに向かう力，人間性等

2. 総合的な探究の時間で育成する資質・能力

目標の改善

- ① 「探究の見方・考え方」を働かせ、総合的・横断的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを旨とするを明確化
- ② 教科・科目等横断的なカリキュラム・マネジメントの軸となるよう、各学校における教育目標を踏まえて設定

内容の改善①

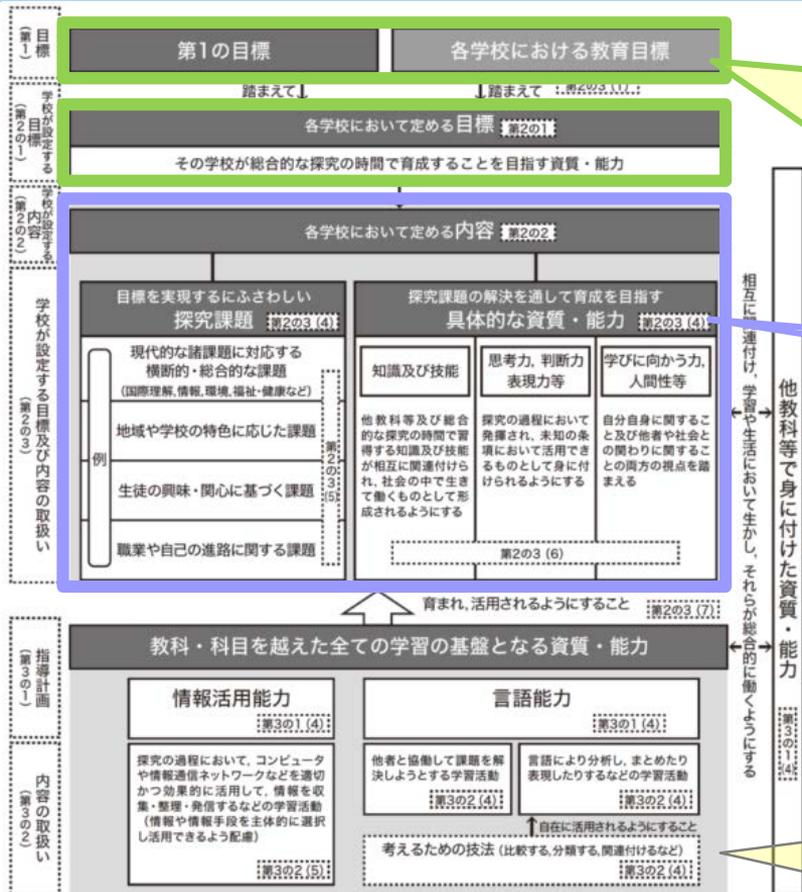
「目標を実現するにふさわしい探究課題」、「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」を設定

内容の改善②

他教科・科目等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活の中で総合的に活用できるように

内容の改善③

教科・科目を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力を育成



3. 学習評価の進め方

学習指導要領
に示す
目標や内容

知識及び技能

思考力, 判断力,
表現力等

学びに向かう力,
人間性等

個人内評価

観点別学習状況の評価や評定には示しきれない生徒の一人一人のよい点や可能性, 進歩的状况について評価するもの。

観点別学習
状況評価の
各観点

知識・技能

思考・判断・表現

感性、思いやりなど

主体的に学習に
取り組む態度

- 生徒が学習したことの意義や価値を実感できるよう, 生徒一人一人のよい点や可能性, 進歩の状況などを積極的に評価し, **日々の教育活動等の中で生徒に伝えることが重要**

総合的な
探究の時間
の記録

(改善等通知
別紙5)

探究の過程において, 課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け, 課題に関わる概念を形成し, 探究の意義や価値を理解している。

実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし, 自分で課題を立て, 情報を集め, 整理・分析して, まとめ・表現している。

探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに, 互いのよさを生かしながら, 新たな価値を創造し, よりよい社会を実現しようとしている。

3. 学習評価の進め方

単元名： 町民の健康寿命を延ばすために～地域住民と共に取り組めること～

単元の目標： 町民の健康や福祉を向上するための活動を通して、**わが町の福祉は様々な人や組織が関わり合って成り立っていることや、持続可能な取組を創造していくことの意義や価値について理解するとともに、健康寿命を延ばすための方策を科学的根拠に基づいて考察し、自他を尊重する精神をもちながら様々な世代が健康に暮らす社会を共に実現しようと行動できるようにする。**

単元の評価規準：

知識・技能

- ①町民の健康や福祉の向上のために様々な人や組織が関わり合っていること、高齢者も活躍できる社会の実現に向けては持続可能な取組を共に創造していくことが大切であることを理解している。
- ②考案した取組の効果に関する実地調査を、相手や研究内容に応じた適切さで正確に実施している。
- ③町民の健康や福祉に対する認識の高まりは、健康寿命の改善に向けた創造的な取組について探究してきたことの成果であることに気付いている。

思考・判断・表現

- ①町民が抱える健康上の問題点について、自己の関心をもとに研究内容を設定し、検証方法を考え研究計画書を作成している。
- ②町民の健康の現状を捉えるために、自己の研究内容に応じて、手段を選択し情報を収集したり蓄積したりしている。
- ③統計や先行研究、町民を対象にした調査結果をもとに、自分たちができる高齢者の健康寿命促進の取組を検討し、実施効果に着目して、取組内容を決めている。
- ④町民の健康や福祉の今後の在り方について、自己の取組を振り返り、学習や生活に生かそうとする。

主体的に学習に取り組む態度

- ①町民の健康の実態に関して、他者の研究内容との関係で自らが設定した研究内容の特徴を捉え、向き合おうとしている。
- ②行政や医療職、介護施設職員等と協働して町民の健康寿命の向上に取り組もうとしている。
- ③町民の健康や福祉の維持発展に向け、持続可能な自己の取組を明らかにして将来社会の実現に貢献しようとしている。

3. 学習評価の進め方

小単元名 (時数)	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1 地域課題を整理し、高齢者福祉の在り方について考えよう。(8)	<ul style="list-style-type: none"> 地域の健康や福祉に対する問題点について自らの認識を出し合い、過疎化、高齢化と深く関連していることを確認する。 高齢者の健康や福祉に焦点を絞って研究内容を設定し、課題の解決に向けた今後の活動への見通しや検証方法を考える。 		①		<ul style="list-style-type: none"> 発言 研究計画書 研究日報
	<ul style="list-style-type: none"> 自己の研究内容に照らして必要な情報を収集し、分析した結果を研究内容報告会で交流し合う。 研究内容報告会から、町民の健康寿命の現状に関する課題意識を高め、研究計画書を更新する。 		②	①	<ul style="list-style-type: none"> 研究内容報告会における発表や発言 研究計画書
2 高齢者の健康寿命の改善に向けて、自分たちのできる取組について考え、検証しよう。(15)	<ul style="list-style-type: none"> 先行研究やアンケート調査等を踏まえて、町民の健康寿命に関する現状の分析を行い、実施可能な方策について検討する。 具体的事例①「思考・判断・表現③」 		③		<ul style="list-style-type: none"> 健康寿命改善計画書 データ分析資料 研究日報
	<ul style="list-style-type: none"> 行政や医療職等と連携・協働した高齢者向け健康教室を実施するとともに、自分たちが考案した取組の検証や改善を行う。 具体的事例②「主体的に学習に取り組む態度②」 	②		②	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察や発言 データ分析資料 研究日報
3 自分たちの取組を振り返り、高齢者福祉の今後の在り方について考えよう。(12)	<ul style="list-style-type: none"> 研究内容への取組をまとめ、得られた成果や効果についての研究発表会を企画・実施する。 	③	④		<ul style="list-style-type: none"> 研究発表会における発表や質疑応答 研究日報 研究集録
	<ul style="list-style-type: none"> 自己の研究内容に関する結論や考察について研究集録にまとめる。 具体的事例③「知識・技能①」 		①	③	

知識・技能

①町民の健康や福祉の向上のために様々な人や組織が関わり合っていること、高齢者も活躍できる社会の実現に向けては持続可能な取組を共に創造していくことが大切であることを理解している。

②考案した取組の効果に関する実地調査を、相手や研究内容に応じた適切さで正確に実施している。

③町民の健康や福祉に対する認識の高まりは、健康寿命の改善に向けた創造的な取組について探究してきたことの成果であることに気付いている。

思考・判断・表現

①町民が抱える健康上の問題点について、自己の関心をもとに研究内容を設定し、検証方法を考え研究計画書を作成している。

②町民の健康の現状を捉えるために、自己の研究内容に応じて、手段を選択し情報を収集したり蓄積したりしている。

③統計や先行研究、町民を対象にした調査結果をもとに、自分たちのできる高齢者の健康寿命促進の取組を検討し、実施効果に着目して、取組内容を決めている。

④町民の健康や福祉の今後の在り方について、自己の取組を振り返り、学習や生活に生かそうとする。

主体的に学習に取り組む態度

①町民の健康の実態に関して他者の研究内容との関係で自らが設定した研究内容の特徴を捉え、向き合おうとしている。

②行政や医療職、介護施設職員等と協働して町民の健康寿命の向上に取り組もうとしている。

③町民の健康や福祉の維持発展に向け、持続可能な自己の取組を明らかにして将来社会の実現に貢献しようとしている。

観点別の学習状況についての評価は、**毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場面を精選する**

総括的な評価を行うためにも、**生徒の姿となって表れやすい場面、全ての生徒を見取りやすい場面を選定する**

4. 評価規準の作成と評価のポイント

(1) 「知識・技能」

① 町民の健康や福祉の向上のために様々な人や組織が関わっていること、高齢者も活躍できる社会の実現に向けては持続可能な取組を共に創造していくことが大切であることを理解している。

② 考案した取組の効果に関する実地調査を、相手や研究内容に応じた適切さで正確に実施している。

③ 町民の健康や福祉に対する認識の高まりは、健康寿命の改善に向けた創造的な取組について探究してきたことの成果であることに気付いている。

- ① 概念的な知識の獲得
- ② 自在に活用することが可能な技能の獲得
- ③ 探究の意義や価値の理解

① 事実に関する知識を関連付けて構造化し、統合された概念的な知識を獲得している生徒の姿を評価規準として設定することが考えられる。ここでは、協働性や創造性等に関する概念的な知識の獲得として評価規準を設定している。

② 手順に関する知識を関連付けて構造化し、特定の場面や状況だけではなく日常の様々な場面や状況で活用可能な技能として身に付いているか、具体的には技能がいつでも、滑らかに、安定して、素早く行われているなどの生徒の姿を評価規準として設定することが考えられる。ほかにも例えば、「持続可能な環境に関する国際的な調査結果を、対象に応じた適切さで正確に収集している」、「どのような情報端末からでも、検索ソフトを使って、正確に短い時間にたくさんの情報を収集している」、「WEBアンケートによる調査活動を、情報セキュリティに配慮して、回答フォームを作成して実施している」などとして評価規準を設定することが考えられる。

③ 探究の意義や価値の理解として、資質・能力の変容を自覚すること、学習対象に対する認識が高まること、学習が生活とつながること、探究を自律的に進めるようになることなどを、探究してきたことと結び付けて理解しているなどの生徒の姿を評価規準として設定することが考えられる。ここでは、学習と創造性とのつながりの理解として評価規準を設定している。

4. 評価規準の作成と評価のポイント

(2) 「思考・判断・表現」

① 町民が抱える健康上の問題点について、自己の関心をもとに研究内容を設定し、検証方法を考え研究計画書を作成している。

② 町民の健康の現状を捉えるために、自己の研究内容に応じて、手段を選択し情報を収集したり蓄積したりしている。

③ 統計や先行研究、町民を対象にした調査結果をもとに、自分たちにできる高齢者の健康寿命促進の取組を検討し、実施効果に着目して、取組内容を決めている。

④ 町民の健康や福祉の今後の在り方について、自己の取組を振り返り、学習や生活に生かしている。

「①課題の設定」、「②情報の収集」、「③整理・分析」、「④まとめ・表現」の過程で育成される資質・能力

① 「**課題の設定**」については、実社会や実生活に広がっている複雑な問題に向き合って、自らの力で解決の方向を明らかにし、見通しをもって計画的に取り組むことができるようになることが期待されており、例えば、「複雑な問題状況の中から適切に課題を設定する」「仮説を立て、検証方法を考え、計画を立案する」などの視点による設定が考えられる。

② 「**情報の収集**」については、情報収集の手段を意図的・計画的に用いたり、解決の過程や結果を見通したりして、多様で効率的な情報収集が行われるようになることが期待されており、例えば、「目的に応じて手段を選択し、情報を収集する」「必要な情報を収集し、類別して蓄積する」などの視点による設定が考えられる。

③ 「**整理・分析**」については、収集した情報を取捨選択すること、情報の傾向を見付けること、複数の情報を組み合わせて新しい関係を見いだすことなどが期待されており、例えば、「複雑な問題状況における事実や関係を把握し、自分の考えをもつ」「視点を定めて多様な情報を分析する」「課題解決を目指して事象を比較したり、因果関係を推測したりして考える」などの視点による設定が考えられる。

④ 「**まとめ・表現**」については、整理・分析した結果や自分の考えをまとめたり他者に伝えたりすること、振り返ることによって対象や自分自身に対する理解が深まることなどが期待されており、例えば、「相手や目的、意図に応じて論理的に表現する」「学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かそうとする」などの視点による設定が考えられる。

4. 評価規準の作成と評価のポイント

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」

自他を尊重する「①自己理解・他者理解」、自ら取り組んだり力を合わせた
りする「②主体性・協働性」、未来に向かって継続的に社会に関わろうとする
「③将来展望・社会参画」など

①町民の健康の実態に関して、他者の研究内容との関係で自らが設定した研究内容の特徴を捉え、向き合おうとしている。

① 「自己理解・他者理解」については、例えば、「自己を見つめ、自分の個性や特徴に向き合おうとする」「異なる多様な意見を受け入れ尊重しようとする」などの視点による設定が考えられる。事例では、研究内容報告会から、町民の健康寿命の現状に関する課題意識を高め、研究計画書を更新する場面にこの評価規準を設定している。

②行政や医療職、介護施設職員等と協働して町民の健康寿命の向上に取り組もうとしている。

② 「主体性・協働性」については、例えば、「自分の意思で真摯に課題に向き合い、解決に向けた探究に取り組もうとする」「自他のよさを認め特徴を生かしながら、協働して解決に向けた探究に取り組もうとする」などの視点による設定が考えられる。事例では、行政や医療職等と連携・協働した高齢者向け健康教室を実施したり、自分たちが考案した取組の検証や改善を行ったりする場面にこの評価規準を設定している。

③町民の健康や福祉の維持発展に向け、持続可能な自己の取組を明らかにして将来社会の実現に貢献しようとしている。

③ 「将来展望・社会参画」については、例えば、「自己の在り方生き方を考えながら、将来社会の理想を実現しようとする」「社会の形成者としての自覚をもって、社会に参画・貢献しようとする」などの視点による設定が考えられる。事例では、自己の研究内容に関する結論や考察について研究集録にまとめる場面にこの評価規準を設定している。

4. 評価規準の作成と評価のポイント

評価規準「知識・技能①」

町民の健康や福祉の向上のために様々な人や組織が関わっていること、高齢者も活躍できる社会の実現に向けては持続可能な取組を共に創造していくことが大切であることを理解している。

【評価場面・方法】研究集録に記述した振り返りの内容を評価資料とした。

【生徒Bの振り返り】～研究集録の一部～

私たちの取組は、地域の高齢者や地域住民に運動する機会と社会参加の場を提供できたと思います。このように考えた根拠は、実施後に行ったアンケートにおいて、高齢の参加者から「参加を目的に家から出る機会が増えた」、「もっと続けたい」などの肯定的な評価が多く得ることができたからです。

私は、地域の方々の健康や福祉の問題は、地域みんなの問題だと再認識しました。私たちを含めて、健康づくりや福祉に関わっている一部の人だけの問題ではありません。私の親や私自身もいずれ向き合わなければならない問題だからこそ、今回の取組のように、高齢者と町民や高校生を繋ぎ、互いに理解し合い地域ぐるみで高齢者を支えるということが続けていかなければいけないと考えようになりました。地域の高齢者の健康寿命を改善することは、少子高齢化の時代を迎える日本にとって、次のような効果があることが分かりました。①高齢就労者による労働力の確保、②医療費用・介護費用の節約、③高齢者の消費活動による経済貢献です。

また、研究発表を行った「データ活用コンペティション」では、データ分析の重要性について改めて学ぶことができました。この取組を通じて、計画性、主体性、協調性などが身に付き、自分自身も大いに成長できたので、今後も地域の高齢者の方と積極的に関わり継続的に地域を支えていきたいと考えています。



研究内容をまとめて結論を得る過程で、**地域の高齢者の健康や福祉は、様々な人や組織が相互にかかわりあって形成されていることや、自分たちの取組の意義や価値についてアンケート等の評価を踏まえ、客観的に分析している。**また、**研究発表を通じてデータ分析の重要性について改めて認識を深めていることも伺える。**さらに、**地域の高齢者の健康寿命を改善するために、地域の高齢者の健康や福祉については、継続的に取り組んでいくことが大切であると理解していることから、評価規準に示す資質・能力が育成されていると考えることができる。**

4. 評価規準の作成と評価のポイント

評価規準「思考・判断・表現③」

統計や先行研究，町民を対象にした調査結果をもとに，自分たちができる高齢者の健康寿命促進の取組を検討し，実施効果に着目して，取組内容を決めている。

【評価場面・方法】

健康寿命改善計画書に記載された内容を評価資料とした。

～現状と課題～

年体力測定結果（浦河町）

1回目

種目	性別	年齢	測定値	国内平均	町内平均	2回目	改善率
1. 歩行	男	65-69	368	350	360	370	2.2
2. 歩行	女	65-69	348	330	340	350	2.1
3. 歩行	男	70-74	378	360	370	380	1.8
4. 歩行	女	70-74	358	340	350	360	2.7
5. 歩行	男	75-79	378	360	370	380	4
6. 歩行	女	75-79	358	340	350	360	2.3
7. 歩行	男	80-84	378	360	370	380	3.1
8. 歩行	女	80-84	358	340	350	360	1.8
9. 歩行	男	85-89	378	360	370	380	3.1
10. 歩行	女	85-89	358	340	350	360	3.2
11. 歩行	男	90-94	378	360	370	380	3.2
12. 歩行	女	90-94	358	340	350	360	3.2



【生徒Aの振り返り】～健康寿命改善計画書の一部～

データを分析することで，課題が明確になったように思います。町内の高齢者向けに行った調査のデータと国内平均を比較すると，町内の高齢者は下半身の柔軟性に課題があることが予想されます。だから，この部分の柔軟性を高めることで，体だけではなく血管も柔らかくなり動脈硬化などの病気を防ぎ，健康的な体をつくることのできるのではないかと考えました。実際にアンケートした結果，町内の高齢者から「実際に椅子に座ってできる運動がよい。」との声があり，今まで考えていた計画を改善して，2回目の計画を立てるようにします。

具体的には，福祉の授業で学んだ高齢者の身体的な特徴に気をつけるとともに，保健体育の授業で行っている体操を組み合わせることで，安全なトレーニングを高齢者の方と一緒に取り組むことができるような計画を立てたいと思います。

国内平均データと町民データの比較を通して，そこから推察される状況を踏まえて自分としての**仮説**を立てている。また，高齢者の身体的特徴についても考慮するなど，**多面的**に高齢者に対して理解していることが伺える。

こうした姿から評価規準に示す資質・能力が育成されていると考えることができる。

4. 評価規準の作成と評価のポイント

評価規準「主体的に学習に取り組む態度②」

行政や医療職，介護施設職員等と協働して町民の健康寿命の向上に取り組もうとしている。

【評価場面・方法】

活動の振り返りとして活用している研究日報に記載された内容を評価資料とした。

【生徒Aの振り返り】～研究日報の一部～

健康教室において、高齢者の身体的特徴に考慮した安全なトレーニングを高齢者の方と一緒に取り組みました。町役場福祉課職員や介護福祉士，看護師の方から、トレーニングの効果を生むためには、継続的に実施できるようにすることが必要と伺いました。このことから、高齢者の方が、トレーニングを継続的に実施できるように、行政や医療の方と連携して、今後も高齢者の健康寿命を延ばすために貢献したいと思いました。

前時までに考えたトレーニングについて、行政や医療職の方から継続的に実施できるようにと助言された。このことにより、**健康教室をイベント的な取組ではなく、継続的に実施したり、家庭でも取り組めたりする必要性を感じ、今後も自分ができることを考え、健康寿命を延ばす取組に貢献しようとしており、評価規準に示す資質・能力が育成されていると考えることができる。**



4. 評価規準の作成と評価のポイント

評価規準「主体的に学習に取り組む態度②」

行政や医療職，介護施設職員等と協働して町民の健康寿命の向上に取り組もうとしている。

【評価場面・方法】

活動の振り返りとして活用している研究日報に記載された内容を評価資料とした。

【生徒Bの振り返り】～研究日報の一部～

まちなか元気ステーション（地域包括支援センター）での健康教室は，開催に向けて多くの人の協力が得られてありがたかったです。町役場福祉課の方から，高齢者の健康寿命を促進することは町の活性化にも意義があると言っていたことは励みになりました。また，介護福祉士や看護師の方が，高齢者一人一人の課題意識や健康状態に応じて，高齢者を支えようとしているかなどが分かり，地域が一体となって高齢者福祉に取り組む必要だということがわかりました。

自分たちの取組が地域社会に寄与するものであることを町役場職員から伝えられることで自己肯定感を高め，**さらに意欲的に健康教室を実施している**ことが伺える。また，地域包括支援センター内の高齢者福祉に携わる職員と健康教室実施に向けて多様な職種と異世代交流することで協働性を育み，**充実した高齢者福祉の実現には地域全体で多様なアプローチが重要であることを理解しており**，評価規準に示す資質・能力が育成されていると考えることができる。



4. 評価規準の作成と評価のポイント

総合的な探究の時間の記録については、この時間に行った学習活動及び各学校が自ら定めた評価の観点を記入した上で、それらの観点のうち、生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等、生徒にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述すること

「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」

- 評価結果の総括に当たっては、評価場面や単元における評価結果を総合し、「総合的な探究の時間の記録」に記述する。その際、必要に応じて、指導を行った学年（年度）を付記するなど、各学校の実態に応じて工夫して記載することが考えられる。

【生徒A】

学習活動	観 点	評 価
町民の健康寿命を延ばすために	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	高齢者とともに取り組むトレーニングでは、各種の統計調査や先行研究などから、健康寿命を延ばす効果と安全を理解し、科学的な根拠をもったトレーニングの内容と方法を考えた。持続可能な自己の取組を明らかにして、今後も高齢者の健康寿命を延ばすために貢献しようとしている。

【生徒B】

学習活動	観 点	評 価
町民の健康寿命を延ばすために	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	まちなか元気ステーションでの健康教室では、町民の健康や福祉の向上のために、様々な人や組織が関わっていることを理解した。健康教室の改善のために、行政や医療職、介護施設職員等と協働して健康寿命の向上に取り組もうとしている。

- 評価の観点は、基本的には「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を設定して記入することになると考えられる。
- 評価規準にかかわらず教育的に望ましい成長や価値ある学習状況が現れた場合、生徒の姿を価値付け、そのよさを記述する。

4. 評価規準の作成と評価のポイント

総合的な探究の時間の指導計画については、実際に学習活動を展開する中で、教師が予想しなかった望ましい活動が生徒から提案されたり、価値ある学習を生み出す問題場面に遭遇したりする可能性もある。

- 教師は、生徒との関わりの中で起きた事実から、**授業の中で本時の授業計画を修正**したり、授業後に本時の実践を振り返り、**次時の授業計画を修正**したりするなど、**柔軟性**をもつことが大切

単元計画及び年間指導計画作成の際に期待した生徒の姿と、学習活動に取り組む生徒の実際の姿とのズレが授業の中で見られることもある。

- 教師は、自らの授業を振り返り、**単元計画や年間指導計画の修正**を行う。さらに、必要に応じて、全体計画についても見直しを図り、**目標や内容の修正**をすることも考えられる。

総合的な探究の時間の指導計画の評価・改善は、
①一単位時間の授業計画，**②単元計画**，**③年間指導計画**，**④全体計画**の全てを見渡して行う

新学習指導要領の改訂のポイントと学習評価 (高等学校 総合的な探究の時間)

文部科学省

初等中等教育局

教育課程課教科調査官 加藤 智